

北海道日高地方でのアメリカコハクチョウ観察記録

谷 岡 隆

●昭和62年～63年・1987～1988（145日間）／日高管内1年目

○日高幌別川…62年11月16日～63年4月9日（145日間）

○様 似 川…63年2月5日～3月9日（32日間）

*幌別川と様似川を往来しているため、日高幌別川の日数は、145日となっているが、この間、様似川に行っていた日も含んでいる。

*様似川で、まだ幼鳥のアメコがオオハクチョウの成鳥によく追いかけられ、いじめられている光景を度々目にする。種類も違い体も小さいとあれば、仕方がないのだが、可愛相でもある。

*この年、アメリカコハクチョウの北海道での越冬が初めて記録される。

*それにしても、国内で数羽しか確認例がなく、珍鳥であるアメコが、オオハクしか越冬しない北海道で、しかも、コハクの中継地ともなっていない日高になぜ、渡来してきたのか、本当に不思議である。

●昭和63年～平成元年・1988～1989（125日間）／日高管内2年目（静内1年目）

○日高幌別川…11月11日～11月27日（16日間）

○静 内 川…11月28日～11月29日（2日間）

○日高幌別川…11月30日～12月4日（5日間）

○静 内 川…12月5日～12月7日（3日間）

○日高幌別川…12月8日～12月22日（15日間）

○静 内 川…12月23日～3月4日（72日間）

○日高幌別川…3月4日～3月15日（12日間）

*トータル

静 内 川…（77日間）

日高幌別川…（48日間）

*この年は、日高幌別川と静内川を行ったり来たりし、渡ってきた当初は、日高幌別川、後は静内川、そして、最後はまた、日高幌別川で越冬し、様似川では、観測されなかった。この事は、日高地方にはコハクが越冬せず近辺には仲間もなく、しかも、アメコがまだ、2歳と若く経験もないため、越冬地をどこにするか、アメコ自身が決めかね、いったり来たりの往来となったと考えられる。

- *日高幌別川は、市街地や人家から離れ、湿地沼である赤沼があるなど、良い環境と自然豊かな地形が残っており、出来ればこの地で越冬をしたかったのではと推察される。
- *静内川での越冬日数が多くなったのは、いくつかの理由が考えられる。その一つは、冬でも静内川は日高管内では唯一、結氷しない河川であるため、天然の餌を採る事も可能であり、生息環境に恵まれている事が最大の理由。また、給餌体制が他のところと比べ、整っているため、いつでも必要な給餌を受けることができ、生活に必要な餌が確保できる結果と推測される。
- *静内川で初めて越冬する。時々、オオハクチョウに追われながらの生活が続く。
- *この年は、暖冬のため、白鳥の渡っていくのが、いつもより早い。
- *新聞などで紹介され、アメコもすっかり町のスター。多くの町民が、餌を持って来ており、パンを主とするかなりの餌をアメコに与えている。

●平成元年～2年・1989～1990（145日間）／3年目（静内2年目）

○日高幌別川…10月25日～11月25日（32日間）

○静内川…11月26日～2年3月5日（113日間）

- *この年の主な越冬地は、静内川となる。
- *行動は、ほとんどが単独行動であるが、3年目の静内川での越冬のためすっかり落ち着いた感じの行動が目につく。昨年までのようにオオハクに追われ、いじめられる光景を見ることは稀で、逆にオオハクを追うぐらいの貫禄が出てきた。
- *アメコは、相変わらず町民の人気者。よく、パンなどの餌をもらおうと白鳥のなかでは、特別扱いで保護されているのが分かる。有り難い。
- *12月・午前11時ごろ、アメコの疑交尾（ぎこうび）を目撃、オオハクチョウの上にあがろうと追いかける行動をしており、この事も含め日頃の行動ぶりから、静内川のアメコの性別は、オスであることの可能性が強い。
- *静内川「白鳥広場」が完成する。これで白鳥と町民の触れ合いがもっと深くなるような条件が整う。（工期／8月2日～12月17日）

●平成2年～3年・1990～1991（9日間）／4年目（静内3年目）

○静内川…11月2日～11月6日、平成3年3月22日～25日（9日間）

- *アメリカコハクチョウが、初めてコハクチョウとペアで渡来する（秋、春とも）。行動はいつも同じくしているが、動作、しぐさ、行動はアメコがいつもリーダー格である事から、アメコのほうがオスであるのはほぼ間違いないと思われる。
- *この年は、渡りの行き帰りに、静内川に立ち寄っただけであり、残念ながら日高地方での越冬は観測されず、日本白鳥の会を通じ、全国に指名手配？をしたが、発見できず残念。多分、本州の人里離れた無名の湖沼河川などで越冬地していると推察される。（伊豆沼、北上川、瓢湖、猪苗代湖、中海など、日本白鳥の会の観測体制が整っている所には、姿を現さず）

●平成3年～4年・1991～1992（5日間）／5年目（静内4年目）

○静内川…10月17日、10月23日、平成4年3月21日～30日（10日間）

- *コハクチョウとペアで渡来が期待されたが、残念ながら一羽で現れ、皆が待ち望んでいたファミリーの夢はならず。非常に残念、今後に期待…。
- *今年は、嘴が良く発達した感じがする。大きくなって、凹凸もはっきりとしてきた。外観は、成鳥になったなという印象が強い。
- *10月下旬、日高地方（静内、新冠、浦河等）を探すも分からず。しかし、10月現在、まだ、日高管内にいるのではと思えてならない。
- *3月21日午前10時頃、静内川に渡来。パンを与えるとよく食べる。人の姿を見ると直ぐやって来る。他の白鳥たちと比較し落ち着いた行動が目立ち、ホームグラウンドの感で動き回っているのがよく分かる。
- *3月22日は終始、旅の疲れをとるためか顔を羽の中に入れて、中洲で寝ていることが多い。（慣れた土地ゆえのゆとりの行動か）
- *この年は、渡りがいつもより2週間早い。

○様似川…平成4年3月19日～21日（3日間）

- *金子さんから電話有り、19日午後6時頃に浦河方向から河口に飛んできたとのこと。20日に様似川に毛利さんの奥さんと一緒に行き、アメコを確認、毎年渡来してくる個体と同一である事もあわせて確認。様似河には4年ぶりの渡来、金子さん、馬場さんとも会う。21日午前8時まで様似川にいるのを馬場さんが確認。

○新冠川…平成4年4月1日～13日（13日間）

- *今年は、初めて静内川から新冠川に帰り道に寄る。結局、新冠川には13日の間滞在する。静内川から新冠川に移った理由は分からないが、新冠川には7羽の白鳥がこの間おり、地形的に沼状の川であるため水草があるのと、ここでも毎日の給餌が行われているため、餌には不自由しないため生息するには条件が整っている（静内川には、4月以降はこの年は白鳥の姿は見えない）。しかし、周辺には、アカハラ釣りの釣人が多く、釣人が我がもの顔で川の中に入る度に、白鳥たちも警戒して移動するなど、環境的にはあまり宜しくはなく、事故が起きなければよいがという感が強い。13日にオオハク7羽と一緒に北へ旅立つ。

●平成4年～5年・1992～1993（148日間）／6年目（静内5年目）

○静内川…平成4年10月17日～平成5年3月19日（148日間）

- *毛利さんが今朝8時頃、一羽の白鳥を見つけたが、左岸にいたためアメコとは判別つかず、午前11時になり、呼ぶと右岸に近付きアメコと確認。パンを一枚食べては中洲に行き、また、食べては中洲に行くに行った感じ。長旅のせいかわ、盛んに羽づくろいをしている。水を飲むしぐさがいつものアメコと同じで、懐かしいような、ほっとするような感じがする。毛利さんが声を出すと近寄りパンを食べた。ハクチョウには、人の声分かる位の能力があると思う。
- *今年見たアメコの特徴は、額の上あたりが一部分茶色に染まっており、多分、夏を過ごした土地が、鉄分が多い場所だったと思われる。また、嘴の幅が大きく、長く、凹凸が深くなっ

ており、毎年、来る年たびにその感がするが、今年はとくに変化が大きい様に思われる。アメコの顔を見ているとなぜかしら、成長したというか、個体としての年輪みたいなものを感じる。それにしても、ファミリーへの期待が外れ、残念というより、可哀相だ。なんとか、家族ができないものかと思う。

(以上、10月17日記)

- *10月17日、アメコが単独で渡来以来の行動。18～19日は姿が見えなかったが、20日は確認。21～22日は再び見えず、23日以降は平成5年3月19日まで連続確認する。
- *10月25日にコハクが渡来。以後、平成5年3月19日までアメコと滞在。アメコとつがいの可能性があるが、静内川での行動ぶりを見ていると、別々の行動が多く、白鳥の習性を考えると、残念ながら、つがいはないように思える。しかし、静内川で越冬しないコハクがなぜいるのか不思議である。(平成2年につがいが来た時は、2羽は片時も離れず)しかし、この冬、平成元年から3年振りに静内川で越冬する。
- *平成5年11月、この3月まで行動を共にしていたコハクが渡来、アメコの姿は確認できず残念。日高に渡来にして6年、そして、静内町に渡来して5年。コハクの平均寿命は6～7年というが、アメコは、もう死んでしまったのだろうか。なんとか無事で、そしてファミリーで元気な姿をもう一度、見せて欲しいものだ。

●平成5年～6年・1993～1994(2日間) / 7年目(静内6年目)

○静内川…平成6年3月8日、16日(2日間)

- *高木さんから、午後4時頃、アメコがいると連絡有り。直ぐ出掛けてみると、アメコ、コハク、そして、その子と思われるファミリーの3羽。アメコとは、実に1年振りの再会となった。だめとも思ったが、もしやという希望もあったので、理屈抜きに嬉しい。しかも、念願のファミリーともなれば、喜びも倍増する。(8日)
- *午前10時頃から静内川に来ていたようだ。毛利さんの差し出すパンをアメコだけは食べにきたが、コハクと幼鳥は、慣れていないため白鳥ふれあい広場には近付いてくれなかったそうだ。残念な事に、夕刻からの悪天候と夕暮れで、観察が良くできない。写真とビデオを撮るが、どれも不鮮明。
- *3月16日、再びファミリーにいるのを高木さんが確認。(静内川)
- *3月16日以降、早朝から静内川で観察するが、姿見えず。この度の静内川への渡来は、たった2日となったが、これまでの間、どこで越冬をしていたかは、まったく不明。コハクの生息条件に適した本州の中部以南で越冬したものと推測される。
- *しかし、念じていたファミリーでの渡来は、今年の秋以降の観察につながる事であり、幼鳥の成長も含めて非常に楽しみな出来事であった。

★青森県青森市野内川…平成6年3月6～7日

- *アメコが、3月6～7日、青森市野内川の野内橋上流側で羽を休めていたのが確認された。県内でアメリカコハクチョウが渡来したのは初めてという旨の新聞記事(東奥日報・3月8日)が、岩手県北上市の村瀬美江さんから送られて来た。静内川に渡来するアメコでは、と

いご配慮であったが、嘴のパターンから同一の個体と分かった。

*村瀬さんの話によると、アメコは、コハクと幼鳥の3羽で、2日間だけ、野内川に立ち寄ったという。3月8日には静内川に渡来しており、初めて静内川のアメコの北帰行のコースの1つが判明した。

●日高支庁管内での生息日数調べ [昭和62年(1987)～平成6年(1994)]

○静内川…386日(昭和63年・14日、平成元年・99日、平成2年・82日、平成3年・9日、平成4年・51日、平成5年・129日、平成6年・2日)

○日高幌別川…225日(昭和62年・45日、昭和63年・136日、平成元年・44日)

○様似川…35日(昭和63年・32日、平成4年・3日)

○新冠川…13日(平成4年・13日)

[データ・平成6年10月23日現在]

